

## 身体事例 2 まとめ

### 1 施設入所者の置かれている立場

障害者支援施設に入所する方は在宅での生活が困難な方である。自分で希望して入所をする方と仕方なく入所をする方がいる。今回は希望する施設ではなく、他の施設が空いたので「仕方なく入所した」方である。そのような方をどのようにすれば前向きにすることができるか、これには相談支援専門員とサービス管理責任者の連携が大切になってくる。

### 2 アセスメントの重要性

中途障害者の多くは生きがいを失ったまま過ごしている。まして、今回の綾小路さんのように自分には過失がないのに、不運にも障害者になってしまった方の支援は非常に難しい。ニーズや希望としてはなかなか出てこないが、アセスメントから何らかの希望を見出すような支援が必要である。そのためには入所する予定のサービス管理責任者と相談支援専門員が同じ方向を向いて支援することが重要で、アセスメントや面接の説明などを2人で一緒に行うことで足並みをそろえていくことが望ましい。

### 3 今回の例

今回は社会福祉を専門に学習した方の計画であり、特に具体的に作成することが必要である。まずは施設の生活を理解していただき、良い印象をもっていただく。担当が相談にのることも大切である。また、そのほか機能面の維持と心のリハビリも大切である。そんな中で自分に合ったボランティアをどう設定していくか、がポイントである。

まずは利用者と会話することを計画に組み入れた。ここにはサービス管理責任者の意図も含まれている。つまり、利用者との会話を通じて、段階的に利用者を紹介するのである。綾小路さんの奉仕という名目の中で、実は利用者を活用して綾小路さんを施設の生活に慣れさせるという目的がある。

### 4 これからの綾小路様

施設の生活を通して、綾小路様に生きがいを取り戻していただくことが最大のポイントである。社会福祉の専門職であり、高齢者支援に関わったという特技を活かして綾小路様が施設での存在感が出てくるとよい。他の利用者との会話の中からそのニーズをひきだし、職員と協力して施設のサービスの質の向上につながっていけば素晴らしいと思われる。